

「全鍍連」 2017年4月号 巻頭言

全鍍連副会長 山田 登三雄 (株)九州電化 代表取締役社長)

「未来を担う子どもたちのために」



技術委員会を担当している副会長の山田登三雄です。平成 28 年度全国めっき技術コンクールには 351 件という多くのご参加をいただき、誠にありがとうございました。29 年度も引き続き、さらに多くの皆様にはご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

さて、私は地元の福岡で一般社団法人福岡市技能職団体連合会会長を 8 年務めています。今回、その事業活動等についてご紹介します。

同連合会は、福岡市で活動している異業種 34 団体が加入し（洋菓子・和菓子・博多人形・左官・タイル・畳・めっき等）、傘下には 3,988 事業所、総従業員数は約 39,170 人で構成されています。顧問は福岡市長が就任しており、市による連合体組織です。活動の趣旨は、職種の違いはあっても相互に協力し、技能職者の技能や社会的経済的地位の向上を図ることにより、福岡市の産業及び地域社会の発展に寄与することを目的としています。

主な事業は、年間を通して交流事業のほか、技能職者の優れた作品の展示や実演会など様々な活動を行っていますが、特に私が力を入れて取り組んでいるのが、小学校に出張する「ものづくり体験講座」です。この活動事業は、年間 8 校に現役の職人を講師として派遣し、子どもたちにもものづくりの楽しさ、プロの匠の技を体感させることが狙いです。

「ものづくり体験講座」の目的は、①子供に職業観や人生観を学んでもらうとともに、手作業による熟練の技を通してものづくりの大切さや尊さを理解してもらうこと、②子供の将来の職業選択、進路選択に生かしてもらうこと、③技能職者の優れた技能を広く紹介し、技能職者の技術の向上と後継者の育成を図ることの 3 つです。体験講座には私も毎回講師の皆さんと一緒に学校に出向き、子どもたちにもものづくりの魅力、社会を支えているさまざまな仕事を知ることの大切さを語るようにしています。

事例をあげると今年 1 月、福岡市にありながら、「玄界島」という離島にある玄界小学校を訪問しました。3 職種（洋菓子・洋裁・理容） 6 名の講師を連れ、船に揺られての移動でした。この島は、今から 12 年前、平成 17 年に発生した福岡県西方沖地震で、島の住宅の半数が全壊し、全島避難というつらい過去がありました。しかし今では復興事業も完了し、学校も新しくなっていました。体験講座は、全校生徒 22 人が 3 職種ごとに 3 つのグループに分かれ、各職種のプロの指導を受けながらものづくりに挑戦しました。後日、児童一人ひとりが書いたお礼文が届きましたので、併せて 3 枚目をご覧ください。幸いです。

感想文や写真からは子供たちの感動がよく表れており、小さいうちからこのような体験をすることの重要性を再認識しました。

また、同様の趣旨により毎年8月、3日間にわたり「ふくおか技能フェスティバル〜この道ひとすじ博多職人展」を福岡国際会議場という大きなコンベンション施設で開催しています。これは、衣・食・住・生活など、あらゆる分野の技能職者が一堂に会しての展示や実演、プロの指導によるものづくり体験などが催されます。昨年開催された博多職人展では、夏休み中の3日間で4,500人の親子連れや子どもたちが集まりました。

このように、ものづくりの現場を身近に見ることが困難な現代社会で、本物の職人と触れ合い、ものづくりという仕事に興味を持ってもらえるよう会員が一丸となり、また技能職者全員が手弁当・ボランティアで頑張っています。当社では、鉄製の恐竜ティラノサウルスのスケルトン（幅2メートル、長さ4メートル60センチ、高さ2メートル50センチ）を毎回展示しています。これはものづくり体験に参加できない幼児たちに、モノを作る楽しさを少しでも感じさせるために、画用紙に好きな絵を描いて恐竜の体に貼り、さらに、風船やモールなどで恐竜をデコレーションしたりして、恐竜の姿を完成させていくものです（3枚目をご参照下さい）。恐竜の製作・展示の手間や経費は大変ですが、幼児たちが鉄製の大型工作物に大喜ぶ様子を見ると、やって良かったとつくづく思います。

私の両親が教育者であったことが影響しているのかもしれませんが、私は子どもたちの教育に（学校だけの勉強だけではありません・・・）強い関心があり、未来を担う彼らをたくましく育てるために何ができるかをいつも考えています。ものづくりの現場を通して、幼児の段階から青少年の育成に取り組むことで、この国の未来と「ものづくり・技術ファースト」の実現に向けて少しでも貢献したいのです。一方、ものづくりは生活を支える最重要の要素ですが、これに従事する人に光が当たることはほとんどありません。それでは若い人が、「ものづくりの世界」に入ってこないばかりでなく、自分の生きている社会への感謝の気持ちも生まれてこないでしょう。

そのためには、体験や展示会などの事業活動に加え、優秀な技能職者につき技能功労者や技能優秀者表彰のほか、「博多マイスター」という顕彰事業を推進しています。ご本人にとっては名誉であるとともに、別の意味合いもあり、若者への指針、ものづくりを軽んずる現代社会への警鐘も含まれています。

こうした想いの中で、うれしいニュースがありました。昨年11月、厚生労働省が「現代の名工」160名を発表し、福岡県で6名、そのうち、福岡市技能職団体連合会の会員4名が名工として表彰されました。一度にこれだけ多く表彰されたことはかつてない快挙で、今年1月、私は受賞者と共に福岡市役所を表敬訪問し、対応した副市長らに、ものづくりと技能職者の価値を強くアピールしてきました。マスコミにも大きく取り上げられましたので、市民にも広く認識されたと思います。

このように、「現代の名工」をはじめ、様々な榮譽を受けられた技能職者には、その喜びを是非社会に還元していただきたいと願っております。これからも優れた技能者がそれぞれの持ち味を發揮して社会の一隅を照らし、次世代の手本になることができるような仕組みを作り続けたいと思います

福岡市立玄界小学校でのものづくり体験講座の様子（平成 29 年 1 月）



写真 ロールケーキづくり



写真 美容技術体験

だ
お
い
し
い
ロ
ー
ル
ケ
ー
キ
一
年
前
の
う
え
は
や
人
ロ
ー
ル
ケ
ー
キ
の
つ
く
り
か
た
を
お
し
え
て
く
れ
て
あ
り
が
と
う
げ
ー
ざ
い
ま
す
。
と
て
も
お
い
し
か
っ
た
で
す
。
感
想
文



洋裁 飾り襟づくり

ふくおか技能フェスティバルでのティラノサウルスづくり体験（平成 28 年 8 月）



初日展示はスケルトン(九州電化製作)

⇒



50名の幼児が思い思いのデコレーションをして完成！